



JET★
STAR

保存版

JETSKI X-4
watercraft

ウォータークラフト **JETSKI** 取扱説明書
watercraft

JETSKI は川崎重工業株式
watercraft
会社の登録商標です。

JET★
STAR

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”をご購入下さいますありがとうございます。きょうからあなたのおよきパートナーとして、十分に活躍させて下さい。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得して下さい。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータークラフト“ジェットスキー”の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守って下さい。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています。

警告

○取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

○取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

（要 点）

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目 次

主要諸元	3
一般事項	4
製造番号	4
各部の名称	4
ラベル位置	5
警告灯と指示灯	5
燃 料	6
エンジンオイル	7
操縦装置	7
シートラッチ	10
備品入れと小物ケース	10
小物入れ	11
工 具	11
ドレンプラグ	11
操縦方法	12
安全な操縦	12
乗る前の点検項目	14
ならし運転	15
エンジンの停止	15
エンジンの始動	16
発 進	17
停 止	18
旋 回	20
着 岸	21
ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方	21
航走終了後の手入れ	23
特殊な手入れ	23
運 搬	27
保 管	28
保管する前の作業	28
保管後再使用する前の作業	30
整備と調整	31
定期整備表	31
コントロールケーブルの調整	32
燃料、エンジンオイル系統	34
スパークプラグ	37
バッテリー	37
潤 滑	39
冷却系統の洗浄	40
ビルジ系統の洗浄	41
トラブルシューティング	43
船舶検査	45
航行区域	46

主要諸元

ウォータークラフト“ジェットスキー” JH750-E2

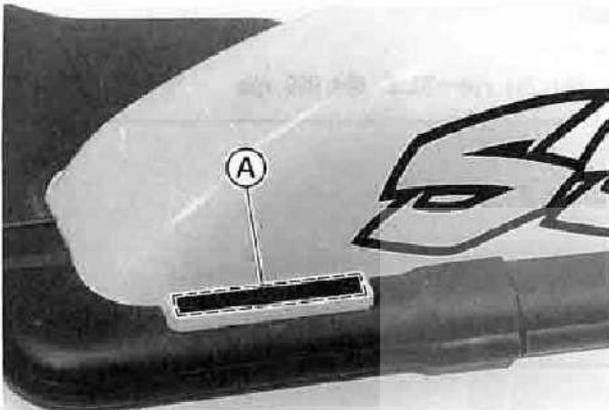
エンジン 型式 排気量 内径×行程 圧縮比 点火方式 潤滑方式 キャブレタ 始動方式 スパークプラグ ギャップ 点火時期	2ストローク、2気筒、クランクケースリードバルブ、水冷 743 cc 80.0×74.0 mm 7.0 : 1 CDI (デジタル) 分離給油式 ケイヒン CDK 40-31 スタータモータ NGK BR8ES 0.7~0.8 mm 上死点前13° @1,250 rpm~20.2° @4,000 rpm
動力伝達機構 カプリング ジェットポンプ: 型式 : 推力 ステアリング ブレーキ	エンジン直結シャフトドライブ 軸流、単段 270 kg ステアリングノズル 水の抵抗力
※性能 連続最高出力 連続最大トルク 最小旋回半径 燃料消費量 航続距離 航続時間	67 PS/6,250 rpm 8.0 kg-m/5,500 rpm 3.3 m 26 ℓ/h (フルスロットル運転時) 87 km (2名乗船・フルスロットル運転時) 1時間16分
寸法・重量 全長 全幅 全高 乾燥重量 燃料タンク容量	2,530 mm 1,030 mm 945 mm 182 kg 33 ℓ (予備6 ℓを含む)
エンジンオイル タイプ オイルタンク容量	カワサキジェットスキー純正オイル(2サイクルエンジンオイル) 2.3 ℓ
電装品 バッテリー	12 V 19 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

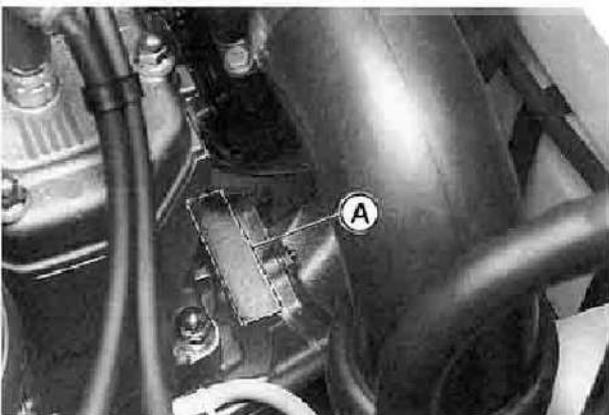
製造番号

- 船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフトを表す番号です。
この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。
下のそれぞれの空欄に記録して下さい。



A. 船体番号

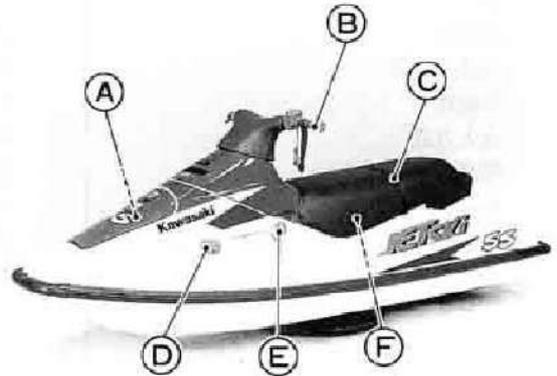
船体番号	
------	--



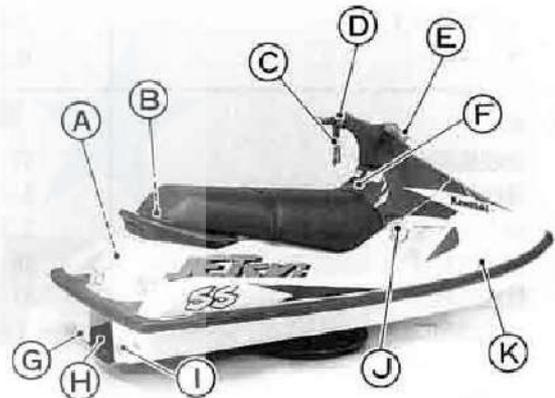
A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

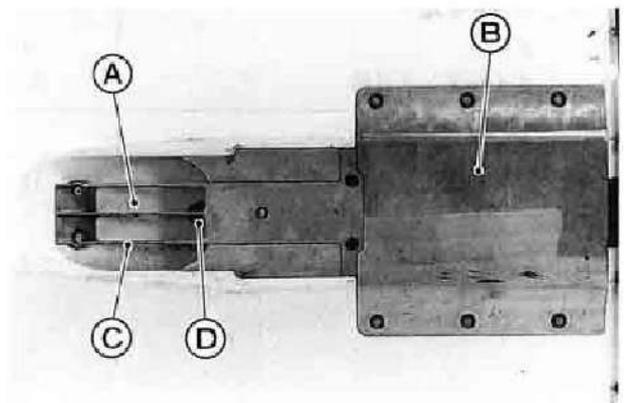
各部の名称



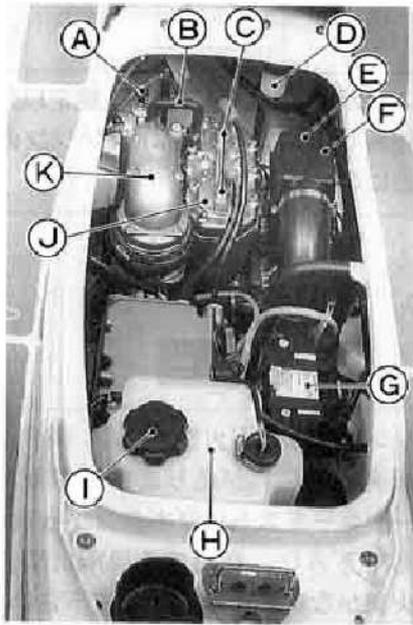
- | | |
|---------------|--------------|
| A. 備品入れ、小物ケース | D. 燃料注入口キャップ |
| B. ハンドルバー | E. チョークノブ |
| C. シート | F. エンジンルーム |



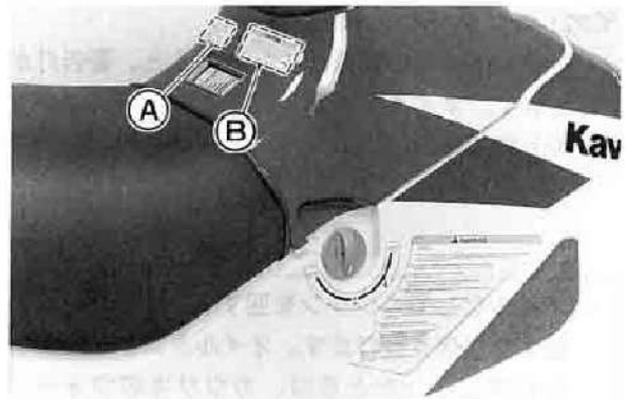
- | | |
|-----------------|--------------|
| A. 小物入れ | G. ドレンプラグ |
| B. シートラッチ | H. ステアリングノズル |
| C. キルスイッチコード | I. 排気口 |
| D. スタータ、ストップボタン | J. 燃料ノブ |
| E. スロットルレバー | K. バイパス出口 |
| F. 警告灯、指示灯パネル | |



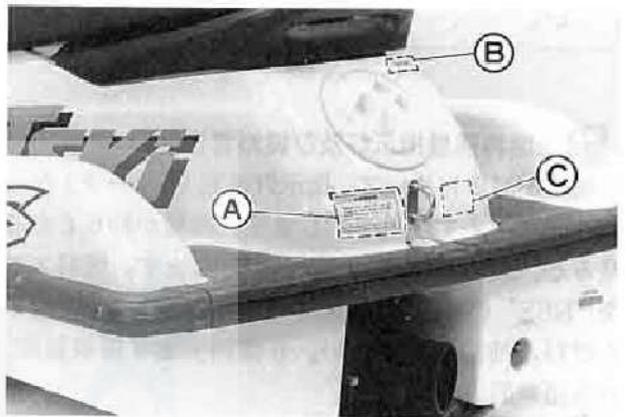
- | | |
|---------------|-------------|
| A. 吸水口 | C. 格子 |
| B. ジェットポンプカバー | D. ドライブシャフト |



- | | |
|-------------|---------------|
| A. ドレンバルブノブ | G. バッテリー |
| B. 冷却ホース | H. オイルタンク |
| C. スパークプラグ | I. オイルタンクキャップ |
| D. セジメントボール | J. シリンダヘッド |
| E. フレームアレスタ | K. エグゾーストパイプ |
| F. キャブレタ | |

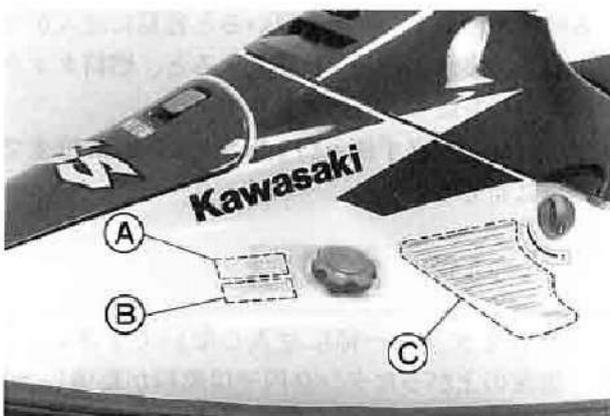


- A. キルスイッチコード B. オーバーヒート



- A. ジェットポンプ点検 B. グリップ C. 最大搭載人員

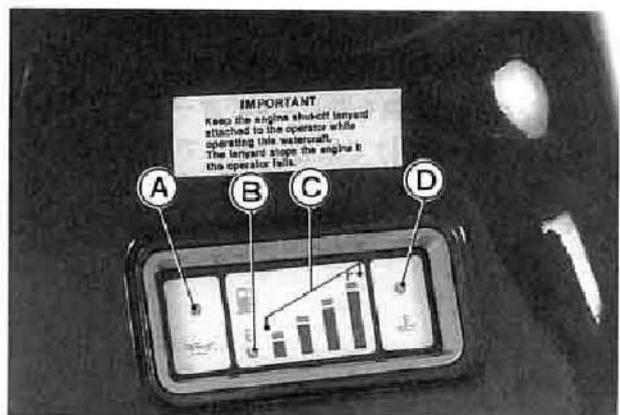
ラベル位置



- A. エンジンオイル・ならし運転 C. 操縦時
B. 燃料注入

警告灯と指示灯

- シートの前方に警告灯・指示灯パネルがあります。



- A. エンジンオイル警告灯 C. 燃料残量指示灯
B. 燃料警告灯 D. 水温警告灯

: エンジンオイル警告灯

エンジンオイルの残量が少なくなると、警告灯が点灯します。オイルを補給して下さい。(「エンジンオイル」の項参照。)

注意

○オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト「ジェットスキー」の販売店でオイルシステムの空気抜きをしてもらって下さい。

: 燃料残量指示灯及び燃料警告灯

燃料が減るに従って、指示灯は右 (Fマーク) から左へ順次消えて残量を示します。残量が約6ℓまで減ると、警告灯 (Eマーク) が点灯します。燃料ノブを「RES」(予備)の位置に切り換え、できるだけ早く燃料を補給して下さい。(「燃料」と「操縦装置」の各項参照。)

: 水温警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると、警告灯が点灯します。また、同時にエンジンの回転も下がります。直ちに岸に戻り、冷却システムが詰まっていないか点検して下さい。(「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。)

注意

○エンジンがオーバーヒートすると、警告灯が点灯してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却システムを点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

.....
燃 料
.....

- レギュラーガソリンを使用して下さい。

注意

○レース用ガソリンや添加物等、規定以外のもものは使用しないで下さい。エンジンの故障の原因になります。

燃料の注入

警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 燃料タンクはバウ (船首) 内部にあり、燃料注入口は船首左側にあります。



A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入して下さい。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 燃料の注入は必ず注入口上部から100mm位までの量にして下さい。

警告

○燃料をタンク一杯に注入しないで下さい。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから溢れる事があります。注入後はキャップを確実に締めて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、小物ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。(「シートラッチ」の項参照。)

警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

〈要 点〉

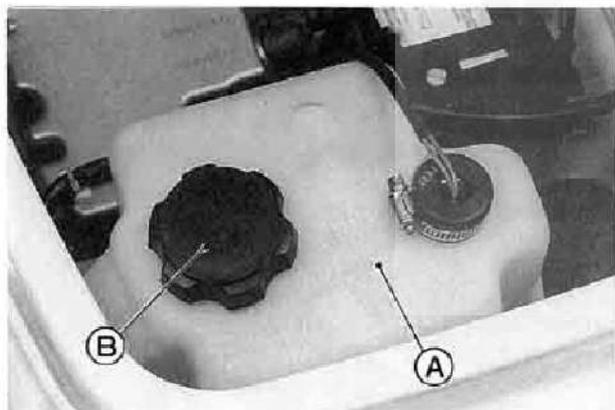
○ならし運転期間中は、特別潤滑用にガソリンとオイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。「操縦方法」の章を参照して下さい。

エンジンオイル

- カワサキジェットスキー純正オイル (2サイクルエンジンオイル) を使用して下さい。

オイルの注入

- エンジンオイルタンクは、エンジンルームにあります。



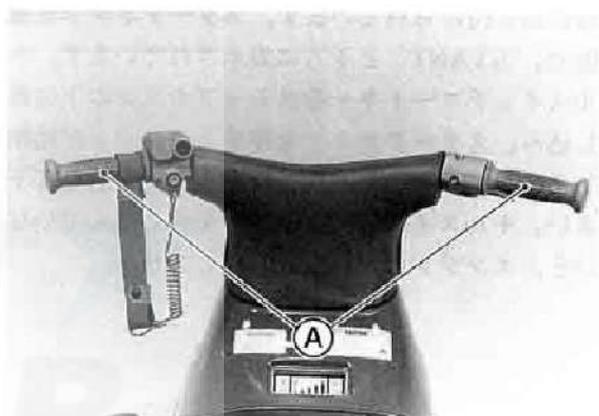
A. エンジンオイルタンク B. オイル注入口キャップ

- シートを外し、キャップを開けてエンジンオイルを入れます。

注意

○オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト「ジェットスキー」の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

操縦装置



A. ハンドルバー

ステアリングハンドルバー

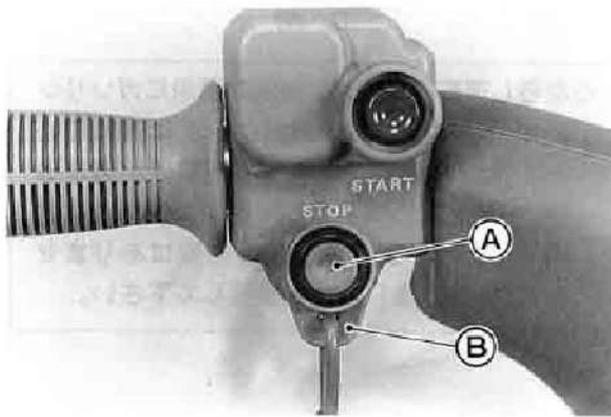
- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いている時のみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のジェットノズルとつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。

(要 点)

- エンジンが始動するためには、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照して下さい。



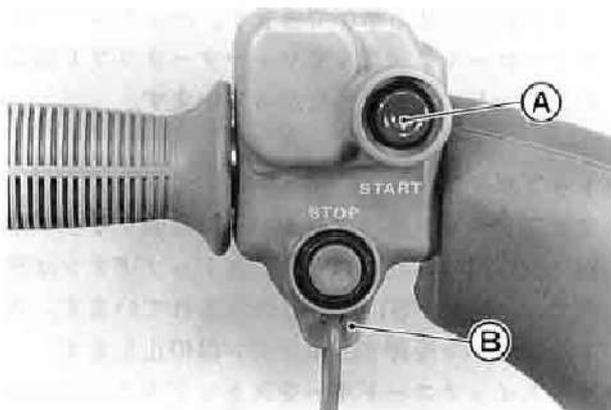
A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放して下さい。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注 意

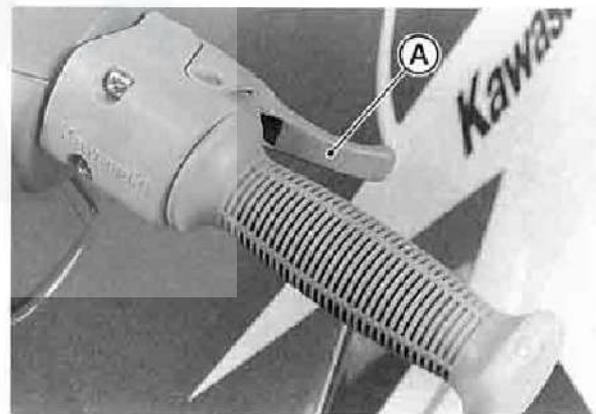
- エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時にスタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



A. スタータボタン B. キルスイッチコードキー

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常的位置に戻るか必ず点検して下さい。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照下さい。



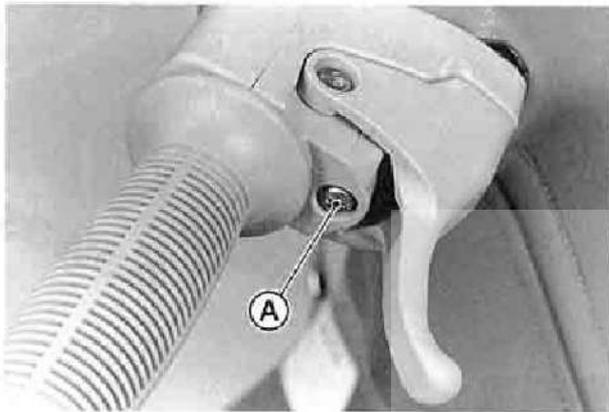
A. スロットルレバー

スロットルリミッタ

- ウォータークラフトには、初心者の方に最大エンジン出力を低減するスロットルリミッタが付いています。リミッタは、スロットルレバーの作動範囲を制限する働きをします。リミッタをねじ込んだり、ねじ戻したりして下さい。ねじ戻すと最大出力が減少し、反対にすると最大出力が増加します。

注意

- スロットルリミッタを調整する時は、周囲にボート等のいない所でスロットルの変化を確認して下さい。
- 水から外に出した状態でエンジンをふかしてリミッタの調整をしてはいけません。エンジンが損傷するおそれがあります。



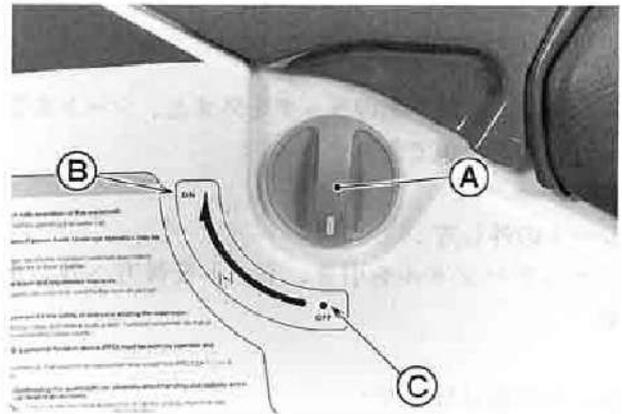
A. スロットルリミッタ

チョークノブ

- チョークノブはステアリングハンドルバー下のデッキの左側に付いています。チョークノブを右へいっぱいまわすと(“ON”位置)、混合気が濃くなって始動が容易になります。始動後はチョークノブを左へいっぱい(“OFF”位置)に戻して下さい。

〈要 点〉

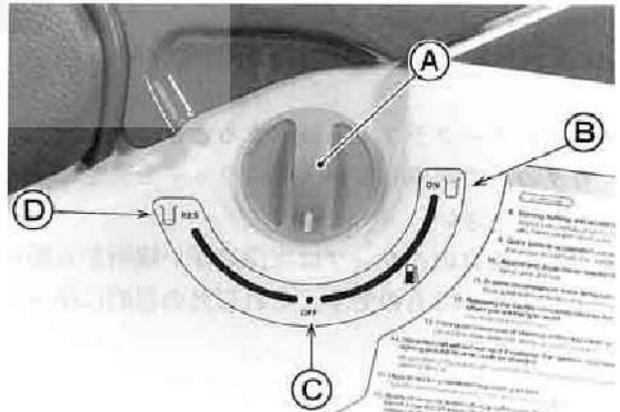
- もし、チョークノブがエンジン始動後も右へまわしたままになっていると、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因になります。



A. チョークノブ
B. “ON”
C. “OFF”

燃料ノブ

- 燃料ノブはステアリングハンドルバー下のデッキの右側にあります。このノブには、“ON” “OFF” “RES” (予備) の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は(燃料警告灯が点灯する)、ノブをRESに切り換える事により約6ℓの予備燃料が使えます。RESに切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約14分間運転できます。



A. 燃料ノブ
B. “ON”
C. “OFF”
D. “RES”

〈要 点〉

- “RES” (予備) の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”の位置にして下さい。

シートラッチ

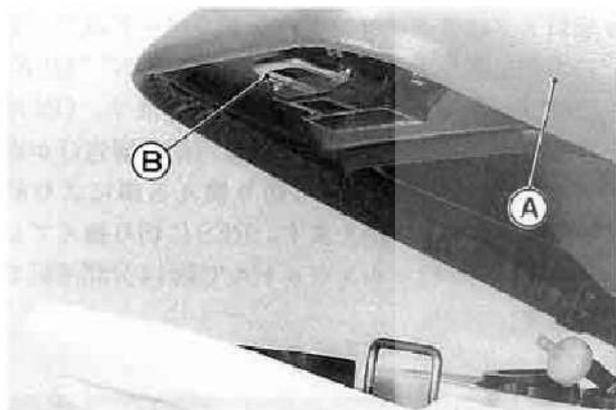
- シートの後端下側のラッチを外すと、シートを取り外すことができます。

シートの外し方：

ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方：

シート先端を所定の位置にしっかりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シート後部を押し下げ、ロックします。



A. シート

B. ラッチハンドル

- ウォータークラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックして下さい。
- シート後方のグリップは水深の深い場所から船に上がるためのものです。それ以外の目的に使ってはいけません。

注意

○グリップをもってウォータークラフトを持ち上げたり、グリップにロープ等をかけないで下さい。

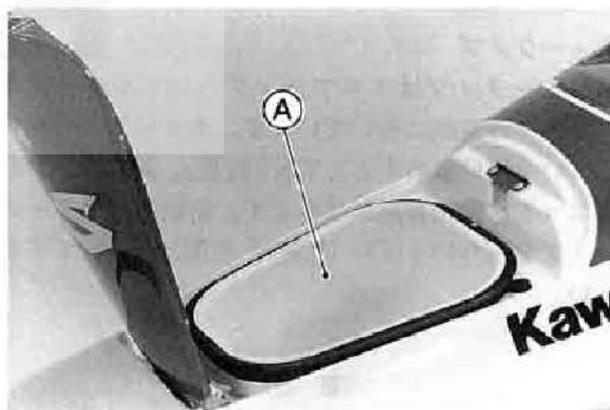
備品入れと小物ケース

- 備品入れは船首にあります。内部に小物ケースがあり、簡単に取り出せます。ノブを引き上げるとふたが開き、閉めるときはラッチがかかるまでノブの近くを押します。



A. 備品入れ

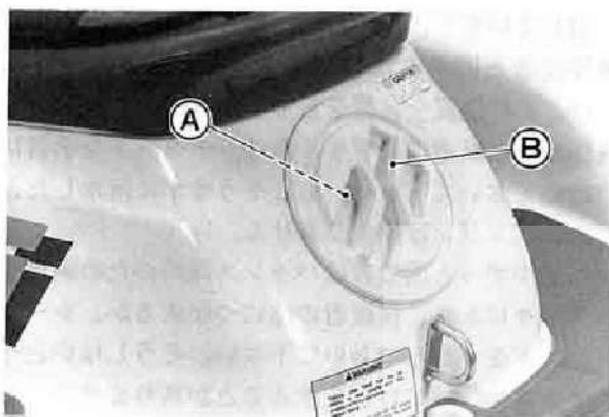
B. ノブ



A. 小物ケース

小物入れ

- シート後方のグリップの下側にふたつきの小物入れがあります。この取扱説明書を防水の袋に入れて、ここに保管して下さい。また、ここにはごく軽量の物だけを入れて下さい。ふたは左へまわすと開き、右へいっぱいまわすと閉まります。



A. 小物入れ

B. ノブ

工具

- 工具は船首の備品入れの小物ケースの下に収納されています。必ずバンドで固定しておいて下さい。



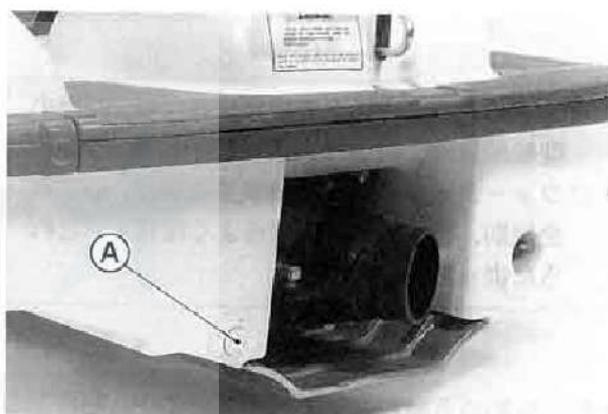
A. 工具

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジンルームにたまった水を排出するためのドレンプラグがあります。ウォータークラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外して下さい。

注意

○ウォータークラフトを水上におろす前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかり締めて下さい。



A. ドレンプラグ

操縦方法

安全な操縦

操縦者と同乗者の水泳能力：

警告

○道具（たとえば浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくる事ができる範囲より沖合に出るはいけません。

安全運転規則：

警告

○ウォータークラフトを操縦するには、四級小型船舶操縦士以上の海技免許が必要です。
○ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これらに従って下さい。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

○一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意して下さい。
○気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港して下さい。

観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- ウォータークラフトは日没後、操縦しないで下さい。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。

注意

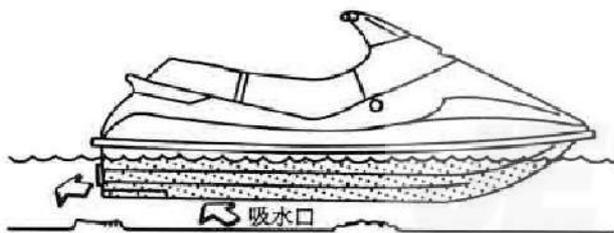
○波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

- このウォータークラフトの定員は2名です。定員以上乗ってはいけません。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリングが正常に動くか点検して下さい。これらが故障していると、事故につながる可能性があります。
- 操縦者と同乗者は、常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 操縦者は航走中必ずキルスイッチコードを手首にはめておいて下さい。もしそうせずに落水したとき、エンジンは停止しません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、操縦者の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいて下さい。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。
- 発進や急旋回する時は周囲に十分注意して下さい。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。
- 旋回するためにはジェットポンプからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に離すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
- ウォータークラフトで他のボート等をえい航したり、水上スキーを引っぱらないで下さい。船首とデッキ後部の孔は、ウォータークラフトの運搬時に縛り付けるために設けてあります。えい航はウォータークラフトの操縦安定性を悪くし、危険な状態を起こす原因になります。また、他の船を操縦している人達も、えい航しているとは思っていないかも知れません。
- このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意して下さい。

- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないで下さい。ウォータークラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐れのある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- 波を横切るまえに、速度をおとしてください。荒波の中を高速で航走すると、腰をいためることがあります。

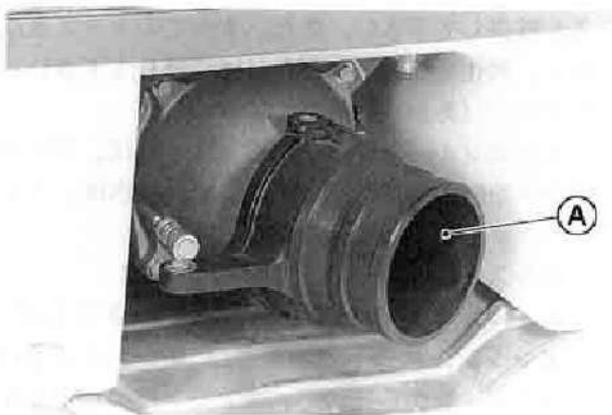
ジェットポンプに関する注意：

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。



警告

○エンジンが回転中は、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物をさし込まないで下さい。けがをする恐れがあります。



A. ステアリングノズル

操縦者と同乗者の安全装備：

警告

- 操縦者と同乗者は、必ずライフジャケットを着けて下さい。
- 落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者と同乗者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用して下さい。



目と足もとの安全と保護：

警告

- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なアイプロテクタ等をかけて安全をはかって下さい。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検して下さい。

ウォータークラフトの外側：

- 1) ポンプの清掃：
吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いて下さい。
- 2) ポンプカバー：
ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めて下さい。
- 3) 船体の損傷：
船体の損傷を点検して下さい。
- 4) ドレンプラグ：
スターン（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。
- 5) ステアリング：
ステアリング系統に引っかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検して下さい。必要であればケーブルを調整して下さい。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換して下さい。

ウォータークラフトの内側：

- 6) スロットルコントロール：
スロットル系統に引っかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

警告

○もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になる恐れがあります。

- 7) エンジンルームの換気：
備品入れのふたを開け、小物ケースを取り出し、シートを外して数分間エンジンルームの換気を行います。

警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 8) 燃料タンク内の圧力：
燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと締めて下さい。
- 9) 燃料：
燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料ノブを“ON”にします。
- 10) バッテリー：
バッテリーの液量が、上限と下限のマークの間にあるか点検します。
- 11) エンジンオイル：
オイルタンク内のオイルを点検します。必要ならば補充します。
- 12) 燃料漏れ：
エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検して下さい。
- 13) オイル漏れ：
同時にオイル漏れがないか点検します。
- 14) セジメントボール：
セジメントボールに水がたまっていないか点検します。もし水がたまっていたら、ボールを外して水をすてます。
- 15) ファスナ：
ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めて下さい。
- 16) ホースの接続：
すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認して下さい。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換して下さい。
- 17) ビルジ（あか）の排水：
エンジンルームに水がたまっていれば、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 18) キルスイッチコード：
エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

警告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気システムの重大な損傷の原因になります。

19) ストップボタン：

再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。

20) シート：

シートのラッチが完全にロックされているか確認します。

21) 操縦者と同乗者の保護：

操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をして下さい。

.....
ならし運転
.....

●新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また表面を滑らかにするためです。ならし運転期間中は、特別潤滑用に50：1のガソリンとカワサキジェットスキー純正オイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。最初の5時間（燃料タンクで約3杯分）のエンジン運転中は、この混合油を使用して下さい。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システ

ムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。また、最初の5時間は急激な加速や長時間の全速運転をしないで下さい。この間は全速の3/4以下で運転して下さい。スロットルリミッタを半分のところまでねじ戻して下さい。

一定の速度で長く運転せず、ひんばんに速度を変えて運転して下さい。

- ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取り扱えば、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場にて定期点検整備を受けて下さい。「整備と調整」の章の「定期整備表」をご参照下さい。

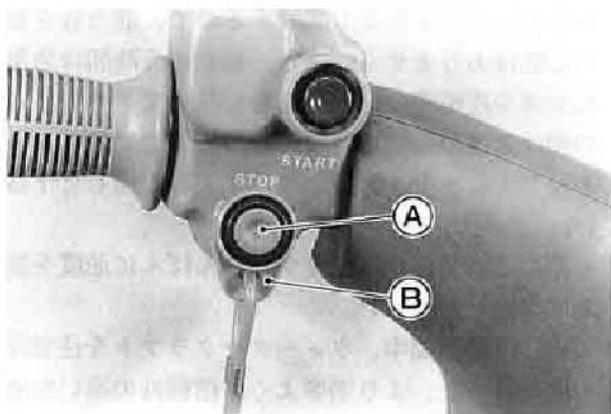
.....
エンジンの停止
.....

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。

警告

○エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。

考えられる緊急事態とは：

- *エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- *スロットルレバーが指をはなしても完全に戻らないとき。

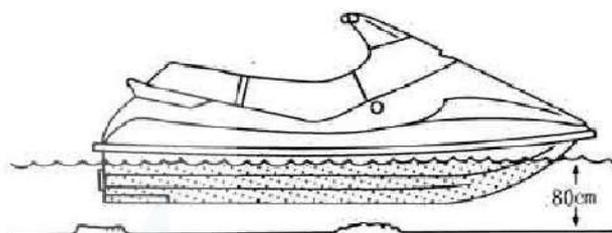
警告

○もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。

警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がいなか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



注意

○ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行って下さい。

- 燃料ノブを“ON”にします。
- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめます。コードを引っ張ってみて、しっかり手首にはまっているか確認して下さい。

(要 点)

○キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。

.....
エンジンの始動
.....

- ウォータークラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従って下さい。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、小物ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。

警告

○進行方向にいるボートや障害物に注意して下さい。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

注意

○棧橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けて下さい。そうしないと船尾が棧橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認して下さい。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータークラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走って下さい。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また障害物に絶えず注意して下さい。

ランプからの発進：

- ウォータークラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を点検したか確認して下さい。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜及び幅が、トレーラーやけん引車に適しているか点検して下さい。

注意

○ウォータークラフトが浸水しないように、スターン（船尾）のドレンプラグがしっかり締められているか点検して下さい。

水深の深い場所での発進：

一人乗りの場合

- ウォータークラフトの後部へまわります。
- シート後端のグリップをつかみ、体を引き上げながら片ひざずつデッキにのせます。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータークラフトに上がります。

水深の浅い場所での発進：

注意

○ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行って下さい。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータークラフトが安定するようにバランスをとって下さい。

停止

通常停止：

警告

○フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないで下さい。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落として下さい。

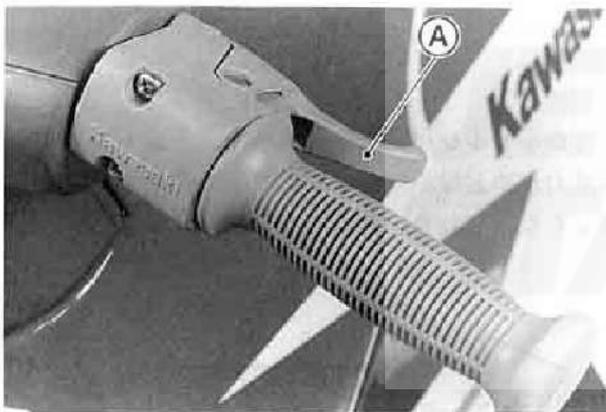
このウォータークラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

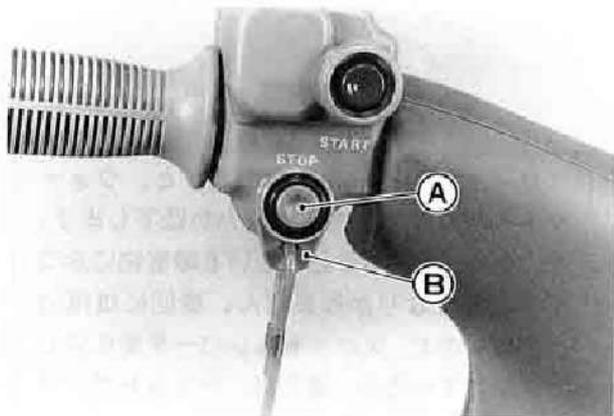
注意

○異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80cm以下になる前にエンジンを止めて下さい。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータークラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータークラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

警告

○スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押して下さい。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷を受けることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

警告

○再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術：

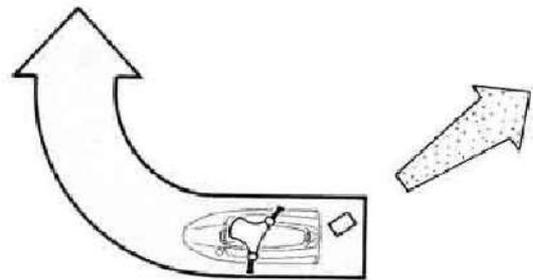
停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮する事ができます。停止するときに急旋回（スロットルを使って）することは、停止距離を短くするのに使える一つの方法です。

最短停止距離：

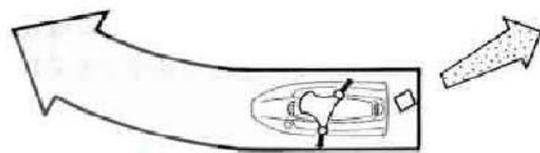
二人乗りで、最高速度からの最短停止距離は64mです。

この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



.....
旋 回
.....

ウォータークラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合わせが必要です。

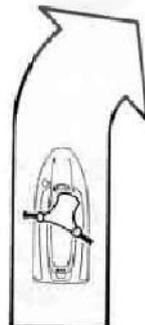
- ハンドルバーを回す。
- スロットルを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。



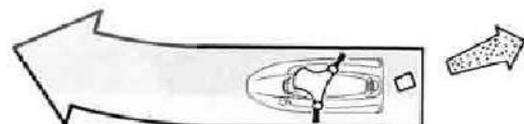
左

右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



右

スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータークラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。



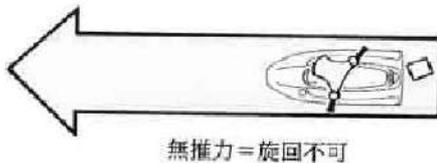
アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

警告

○スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

航行中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



警告

○再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

- 旋回に入る前に、スロットルをゆるめてスピードを落として下さい。

警告

○このウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になる恐れがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意して下さい。また、同乗者は航行中必ず操縦者の体につかまるか、シートバンドをつかんでいて下さい。

.....
着岸
.....

- 着岸するときは、ウォータークラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使って下さい。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押して下さい。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

○ウォータークラフトを岸に乗り上げないで下さい。インペラや船体がひどく損傷することがあります。
○浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないで下さい。従って、ウォータークラフトのスピードが十分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めて下さい。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

.....
ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方
.....

初めてウォータークラフトに乗った時は、シートにまたがって座ります。ウォータークラフトの扱い方に慣れて下さい。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんで下さい。

警告

○ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないで下さい。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まっても（そのまえに燃料警告灯が点灯する）、チョークノブを回してはいけません。燃料ノブを“RES”の位置に戻し、エンジンをもう一度始動します。常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意して下さい。

（要 点）

○“RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
○補給後はノブを必ず“ON”の位置にして下さい。

落 水：

操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

警告

○ウォータークラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないで下さい。ウォータークラフトにぶつかってけがをすることがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、しりから先に水面に落ちることです。
- ウォータークラフトの後部から上がります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータークラフトの起こし方：

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。
直ちに次の手順で船体を起こして下さい。

警告

○このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っていなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

- エンジンが停止したか確認します。もし停止していなければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注 意

○もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で手前の船側を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようにします。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならば反対側の船側をつかんで船を完全に引き起こします。
- 後部から船に上がります。コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。

(要 点)

○ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者がスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らさねばなりません。こうするとビルジ装置が働いて、エンジンルームにたまった水を排出することができます。

○もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照して下さい。

.....
航走終了後の手入れ
.....

第1：排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなる迄、くり返しエンジンをふかして下さい。

注意

○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄して下さい。(「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。) これは塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2：エンジンルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかり締めます。
- エンジンルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができ、また結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、すきまをあけておきます。

.....
特殊な手入れ
.....

インペラの清掃：

時折、海藻や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを水から引き揚げます。

警告

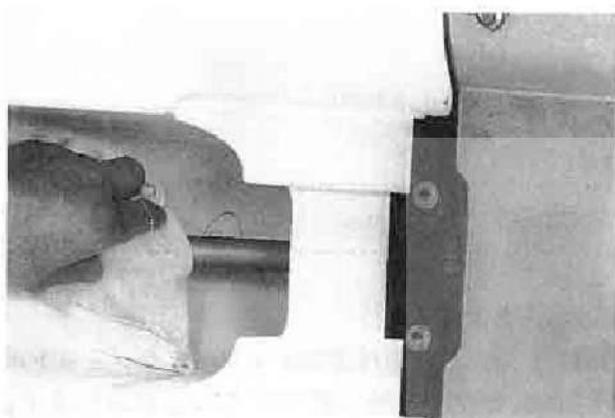
○エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないで下さい。けがをする恐れがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいて下さい。

- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを右側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外して下さい。

注意

○ウォータークラフトは必ず右側に傾けて下さい。左側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



注意

○ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認して下さい。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

汚れたスパークプラグの清掃：

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したまま航走した場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けて下さい。汚れたスパークプラグはプラグクリーナーで清掃して下さい。また、水のついたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。
- エンジンを始動します。スロットルはほとんど使わないで下さい。

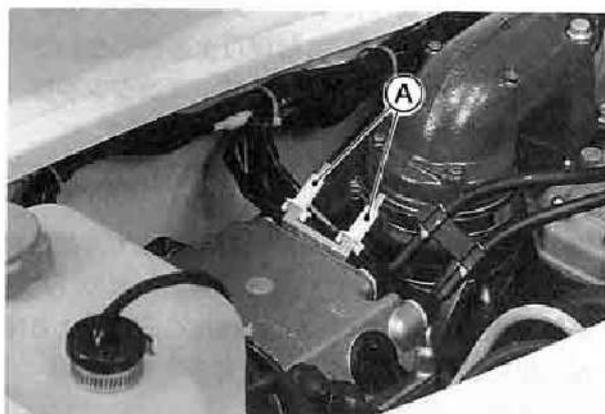
浸水後の処置：

注意

○もしエンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をして下さい。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータークラフトが浸水したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータークラフトを水から引き揚げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。
3. スパークプラグを取り外し、プラグキャップを電装ボックスの前にあるスパークプラグキャップホルダにしっかりと差し込みます。

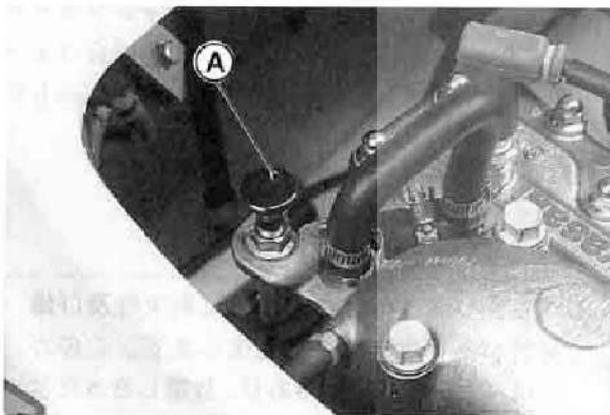


A. スパークプラグキャップホルダ

4. コードキーをストップボタンに差し込み、エンジンドレンバルブノブを引き上げながらスタートボタンを押します。エンジン内の水がクランクケースから出てきます。スタートボタンは5秒以上押さないで下さい。もう一度スタートボタンを使用する時は、15秒以上間をあけて下さい。

警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。



A. ドレンバルブノブ

5. ドレンバルブノブを戻します。
6. ドレンバルブノブを引き上げ、もう一度エンジンを回してエンジン内の水が完全に出たか確認します。ドレンバルブノブを戻します。
7. プラグキャップをホルダから抜きます。
8. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取り付けます。
9. チョークノブを右へまわし（“ON”位置）、エンジンを始動します。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気システムの重大な損傷の原因になります。

○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

10. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動して下さい。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
11. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタスクリーンと燃料フィルタを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所に捨てて下さい。

警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

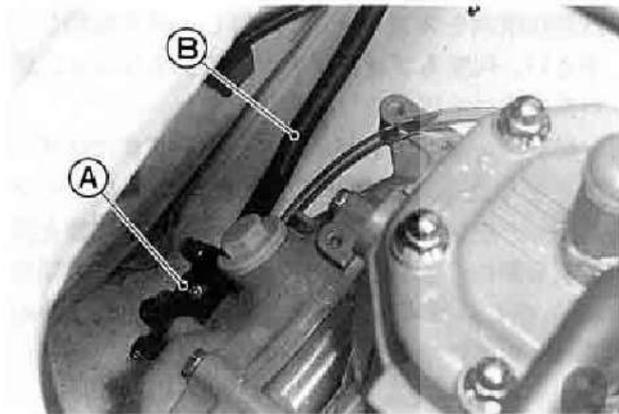


A. サイフォンホース

(要 点)

○エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を数回繰り返す必要があるかも知れません。繰り返しトラブルが起きるときは、燃料ポンプを交換する必要があります。販売店に相談してみてください。

12. オイルタンク内に水があれば、オイルを全部抜きとります。オイルポンプからインテークホースを外し、オイルを抜きます。



A. オイルポンプ B. インテークホース

13. ホースを元通りオイルポンプに接続し、新しいカワサキジェットスキー純正オイルを入れます。汚れたオイルは決められた場所に捨ててください。
14. オイルホース内の空気を抜きます。(「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。)
15. シートを取り付け、ラッチをロックします。
16. ドレンプラグをスターン(船尾)に取り付けます。
17. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物(塩など)を排気口から排出します。

ウォータークラフトのえい航:

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合にはウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ポートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8km/h以上のスピードを出さないで下さい。

注 意

○この指示は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジンルームに浸水し、ウォータークラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動:

バッテリーが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータークラフト等の正常なバッテリーとジャンプコードを使って始動することができます。その場合ウォータークラフトのバッテリーと同じ電圧(12V)のものを使用して下さい。

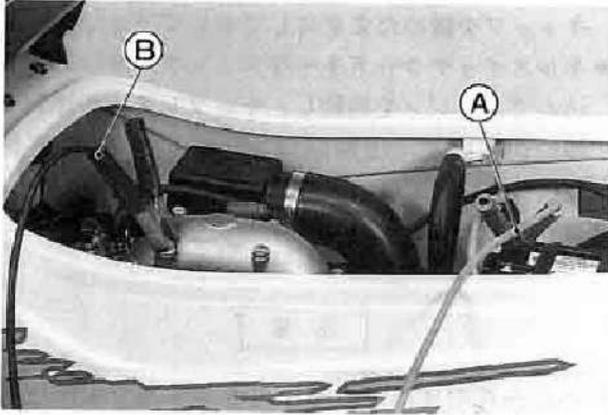
警告

○バッテリー液は条件によっては引火性及び爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリー内に常時あり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリーから遠ざけて下さい。またバッテリーを取り扱っている時は、保護メガネを着用して下さい。バッテリー液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者診察を受けて下さい。

- 両方のバッテリーの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリーの(-)ターミナルに接続します。

注意

○バッテリーを反対の極 [(+)から(-)] へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード B. (-) コード

- もう一方の端をエグゾーストパイプのボルトに接続します。

警告

○最後の手順の接続を間違えてキャブレタやバッテリーへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時はバッテリーの上に体を乗り出さないで下さい。また、凍結したバッテリーをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発する恐れがあります。

注意

○5秒間以上連続してスタータを回さないで下さい。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回して下さい。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外して下さい。

エンジンのオーバーヒート：

このウォータークラフトには、エンジンがオーバーヒートしたときに水温警告灯を点灯させ、エンジンの回転を落とす温度センサーがついています。

- 警告灯が点灯してウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっていないか点検して下さい。

注意

○エンジンがオーバーヒートすると、警告灯が点灯してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

運搬

ウォータークラフトをトレーラー等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守って下さい。

- ウォータークラフトの重量と形状にマッチしたトレーラーを使用して下さい。不適格なトレーラーで運搬することは安全面で問題があります。
- 燃料ノブを“OFF”の位置にします。
- トレーラーの上で動かないようにしっかり固定して下さい。

注意

○シート後方のグリップにロープ等をかけないで下さい。

保 管

冬の間や、長時間ウォータークラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなった部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータークラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。

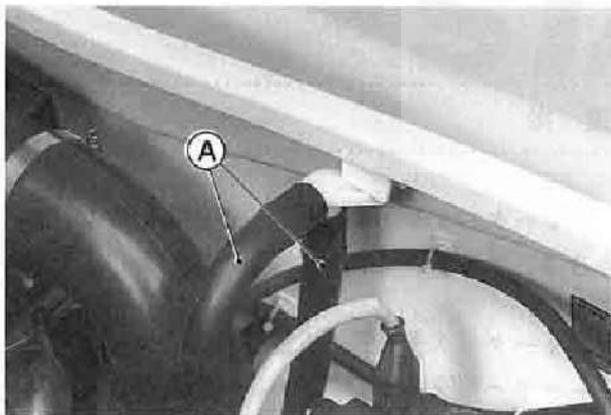
保管する前の作業

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出して下さい。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統

警告

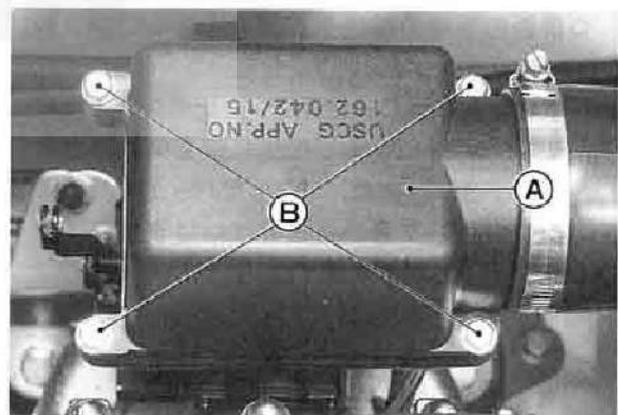
○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いて下さい。
- 燃料フィルタスクリーンを清掃し、燃料フィルタを点検または交換します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンク内の結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいて下さい。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- コードキーをストップボタンから抜きます。

注意

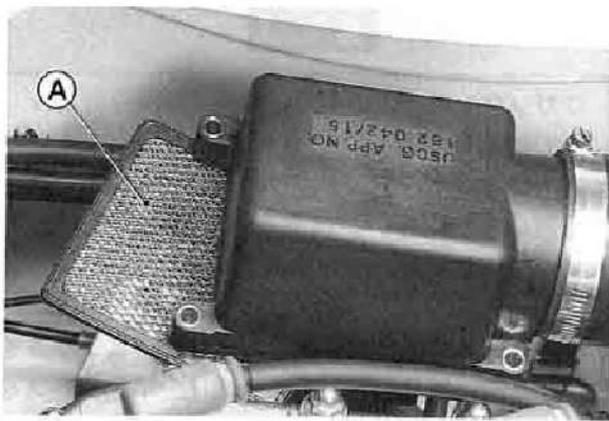
○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



A. 空気吸入口カバー B. ボルト

- フレームアレスタエレメントを取り外し、必要な場合は圧縮空気で清掃します。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- フレームアレスタエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

エンジン

- スパークプラグを取り外し、プラグキャップをプラグキャップホルダに差し込みます。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者診断を受けて下さい。

- コードキーをストップボタンから抜き、スパークプラグとプラグキャップを取り付けます。

バッテリー

- バッテリーを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリー」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

○バッテリー内に重ソウの溶解液が入らないようにして下さい。

- バッテリー液の量を調べ、必要ならば蒸留水を上限のマークまで満たして下さい。
- 比重計でバッテリー液の比重を点検し、必要ならば充電して下さい。
- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリーを乾燥した涼しい場所に保管し、温度が氷点下になる場所にはおかないで下さい。

要点

○バッテリーは少なくとも30日おきに点検し、必要ならば補充電して下さい。長く放置すると徐々に放電し、サルフェーション（極板が白くなる）が始まります。いったんこの反応が始まると、バッテリーは大抵の場合正常な機能に戻すことはできません。

洗浄

- エンジンルームを水洗いし、ドレンプラグを外して排水します。残った水はきれいに拭きとります。
- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

○ウォータークラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用して下さい。強力な溶剤は化学作用で表面塗装を変色させることがあります。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10mm位の木片等をおいてすき間をあけておきます。
- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

潤滑

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。詳細については、「整備と調整」の章を参照して下さい。

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。（「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク及びステアリング機構が動かなかったり、途中でひっかかたりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置にもどらなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを右へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換して下さい。カバーを取り付け、しっかりと固定します。
- ドレンプラグがしっかり取り付けられているか点検します。
- バッテリーを点検し、必要ならば充電して、ターミナルを清掃します。バッテリーを取り付けて下さい。（「バッテリー」の項参照。）
- 燃料フィルタスクリーンや燃料フィルタを点検または交換します。（「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料ベントチェックバルブを検査します。（「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかり締めます。

警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、小物ケースを取り出し、シートを外してエンジンルームを数分間換気して下さい。

警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理して下さい。
- オイルフィルタを点検、清掃します。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

警告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイル及び排気ガス漏れを点検して下さい。漏れがあれば必ず修理して下さい。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。
○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

整備と調整

定期整備表

(要 点)

○毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施して下さい。

実施項目	類 度	最初の 10時間後	25 時 間 毎	100時間 毎
すべてのホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。		●	●	
※シリンダヘッドナットを締める。		●	●	
キャブレタ部のスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部を潤滑する。			●	
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。			●	
バッテリー液の量とターミナル部を点検する。			●	
チョークケーブルとスロットルケーブル及びスロットルケースのケーブル取付部を潤滑する。			●	
ステアリングケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズルのピボットを潤滑する。			●	
※ハンドルバーピボットを潤滑する。			●	
※燃料フィルタスクリーンを検査、清掃する。			●	
※燃料フィルタを検査、交換する。				●
燃料ベントチェックバルブを検査する。			●	
キャブレタを調整する。			●	
ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。			●	
冷却系統を洗浄する（海上で操縦した時は使用後毎回）。			●	
フレームアレスタを検査、清掃する。			●	
※インペラのブレードの損傷を検査する。				●
※カップリングダンパを検査、交換する。				●
※キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを検査する。（もし必要ならばキャブレタを交換する。）				●
※ステアリングケーブルを点検する。				●

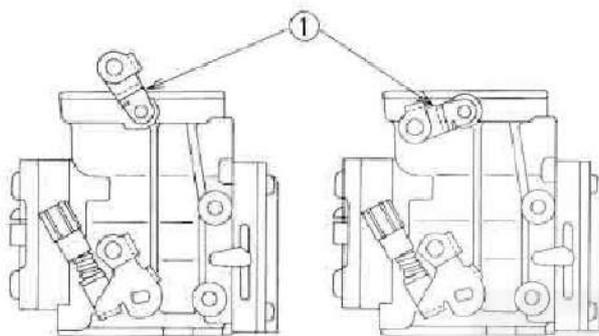
※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取扱いに熟練していなければ、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で実施してもらって下さい（サービスマニュアル参照）。

コントロールケーブルの調整

チョークケーブルの調整

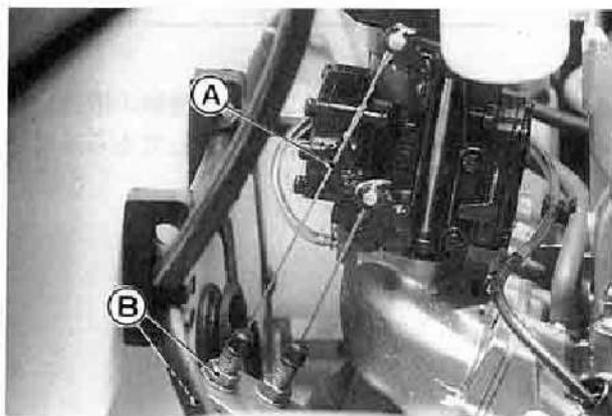
- チョークノブが“OFF”の位置にあるとき、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが一番上方にあり、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。

チョーク開
(ノブが“OFF”位置) チョーク閉
(ノブが“ON”位置)



1. チョークピボットアーム

- 必要ならばチョークケーブルを調整して下さい。
- チョークノブを“OFF”位置にします。
- ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
- ロックナットをしっかり締めます。



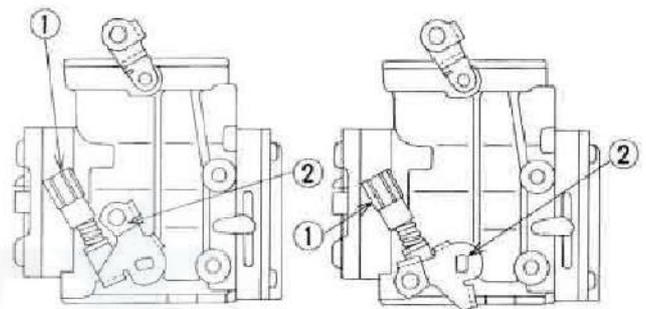
A. チョークケーブル

B. ロックナット

スロットルケーブルの調整

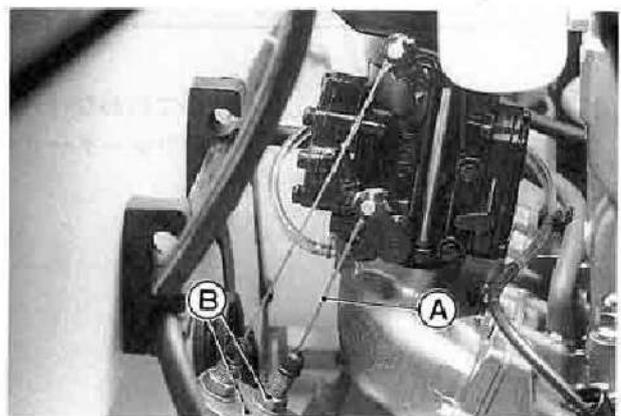
- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストッパがアイドルアジャストスクリューに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。
- スロットルレバーをいっぱい引いたとき、ピボットアームの上側のストッパがキャブレタのストッパに最大限に近接しています。

スロットル閉
(レバーを放した状態) スロットル開
(レバーをいっぱい引いた状態)



1. アイドルアジャストスクリュー
2. スロットルピボットアーム

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルブラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパがアイドルアジャストスクリューに当たるようにします。次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- ロックナットをしっかり締めて下さい。



A. スロットルケーブル

B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整

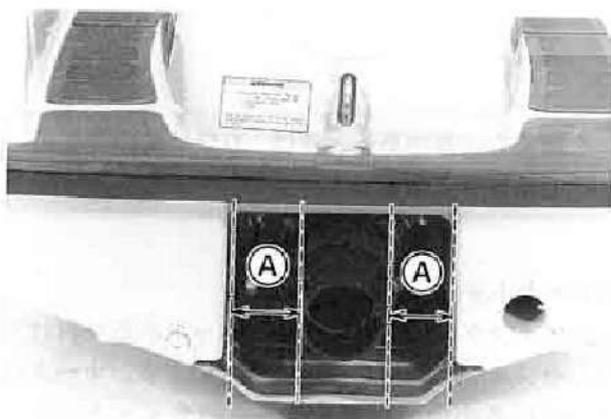
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。

〈要 点〉

- ステアリングシャフト下端（エンジンルーム内）からスプリングの右側を外しておくと、調整が容易になります。
- 調整後は必ずスプリングをもと通りにかけて下さい。

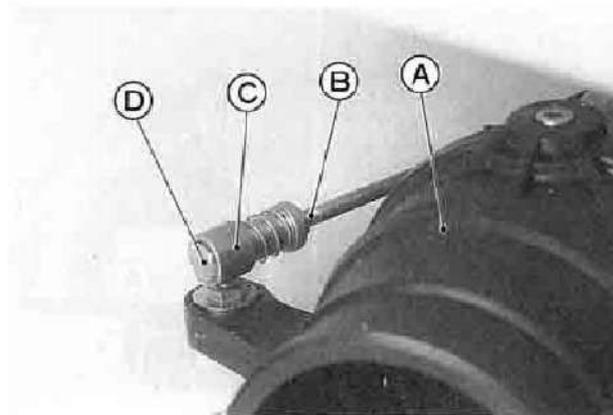


- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



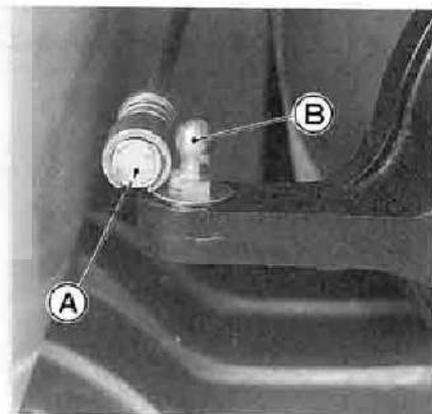
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズルを右へ向けます。
- ステアリングノズル左側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



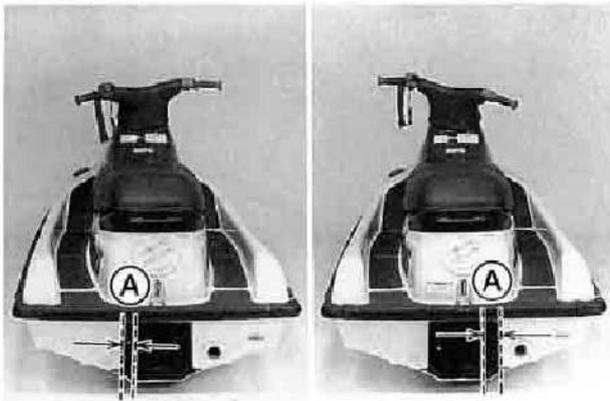
A. ステアリングノズル C. スリーブ
B. ロックナット D. ボールジョイント

- アウトスリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのボールジョイントをまわして、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置しているときに穴がボールの位置に合うようにします。



A. ボールジョイントの穴 B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかり締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



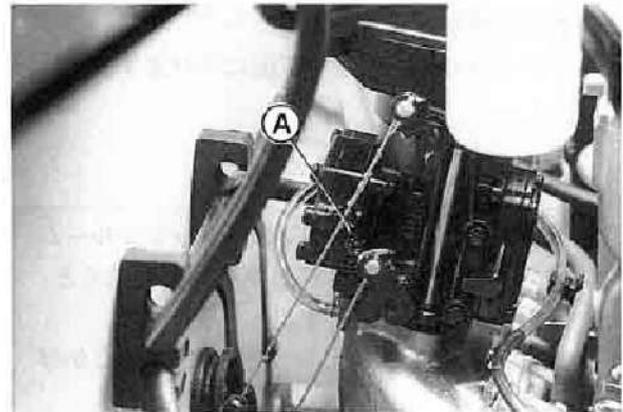
A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられた時は、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

○ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。



A. アイドリングアジャストスクリュー

アイドリングスピード

水上……約 1,250rpm

陸上……約 1,700rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場にて測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取り付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないで下さい。

〈要 点〉

○調整の必要があるときは、カワサキの販売店で調整してもらって下さい。

燃料、エンジンオイル系統

キャブレタの調整：

アイドリングスピード

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドリングアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。

燃料ベントチェックバルブ：

燃料タンクにはゴムのベントホースが取り付けられ、セジメントボールに接続しています。ホースについている小型のプラスチックのチェックバルブは、燃料タンク内に空気を入れる一方、ウォータークラフトが転覆したとき燃料のこぼれを最小にする働きをしています。

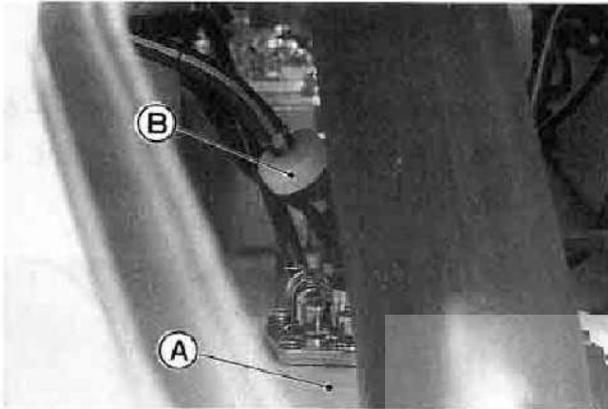
燃料ベントチェックバルブの検査

「定期整備表」の規定に従ってチェックバルブを検査して下さい。

警告

○燃料関係のホースを外す前に、燃料注入口キャップを緩めて圧力を抜いて下さい。

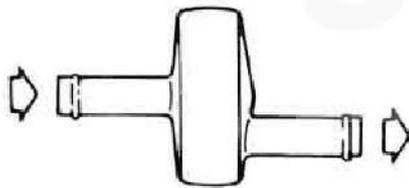
- 燃料ベントホースからチェックバルブを取り外します。



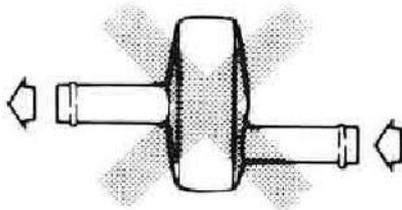
A. 燃料タンク B. チェックバルブ

- チェックバルブの各開口部から空気を吹き込んで下さい。

空気は下図の方向には自由に通ります。



下図の方向には通りません。

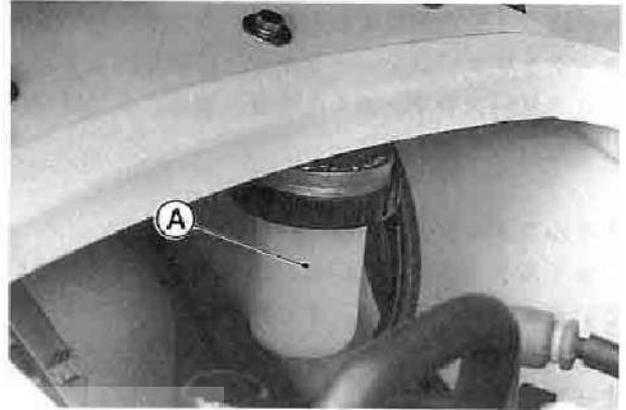


- もし、上記のテストの一つでも不合格になったら、良品と交換して下さい。
- チェックバルブの矢印を燃料タンクの方に向けて取り付けます。

セジメントボール：

燃料タンクに水が入らないように、ベントホースにセジメントボールが取り付けられています。

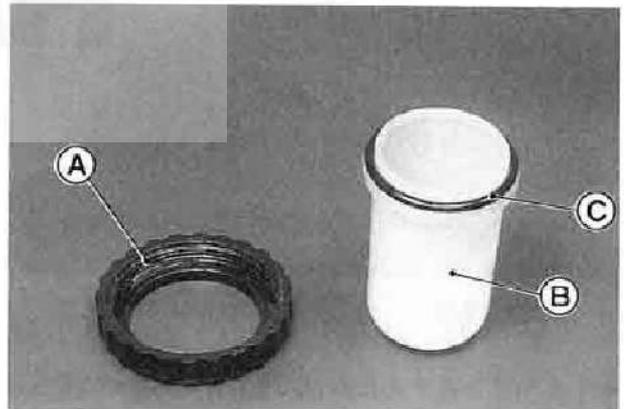
セジメントボールに水がたまっていれば取り外して排水し、清掃します。



A. セジメントボール

セジメントボールの清掃

- リングをまわして、セジメントボールを取り外します。
- ボールの水を捨て、清掃します。



A. リング B. セジメントボール C. Oリング

- ボールにOリングをつけてボールを取り付け、リングを締め付けます。

燃料フィルタスクリーン、燃料フィルタ：

ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐため、燃料アウトレットアッシに燃料フィルタスクリーンが、また燃料ホースの中間に燃料フィルタが付いています。

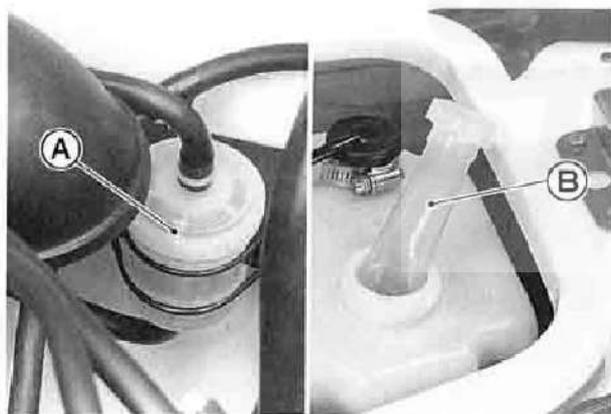
「定期整備表」の規定に従って、あるいは燃料フィルタにゴミや水が見えたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でフィルタスクリーンやフィルタを検査、清掃、または交換してもらってください。

オイルフィルタ：

オイルタンクの注入口に、オイルフィルタが付いています。オイルを注入するたびに、フィルタにゴミなどがたまっていないか点検して下さい。もしたまっている場合は、フィルタを清掃します。

オイルフィルタの清掃

- オイル注入口からオイルフィルタを取り出します。



A. 燃料フィルタ

B. オイルフィルタ

- オイルフィルタを洗淨油で洗い、詰まった汚れはブラシで落として下さい。

警告

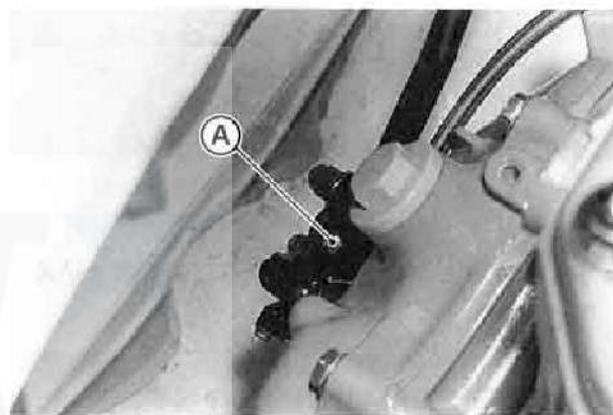
- フィルタの清掃は、通気性の良い、火気の無い場所で行なって下さい。
- ガソリンとか引火性の強い洗淨油は、フィルタの洗淨には使用しないで下さい。

- オイルフィルタを元通りにオイルタンクの注入口にはめ込みます。

オイルポンプの空気抜き：

オイルポンプに接続している2本のホースのどちらかでも外したときは、ホースの内部に空気が入り、オイルの流れを妨げることがあります。

- オイルタンクに十分オイルがあり、オイルがスムーズに流れる状態にあることを確認します。
- オイルポンプの下に布を敷きます。
- オイルポンプについている空気抜きスクリューを2回転緩め、オイルが流れ出たらスクリューをしっかりと締めます。



A. 空気抜きスクリュー

- シリンダヘッドの冷却ホース取付部から水を送って、エンジンを十分冷却します。（「冷却システムの洗淨」の項参照。）

注意

- 水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。また、エンジンを止める前に水を止めて下さい。
- 冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを始動し、アイドリング状態でオイルが透明なアウトレットホースを通っているか点検します。

- アウトレットホースの中の気泡がなくなるまで、エンジンを回しておきます。

注意

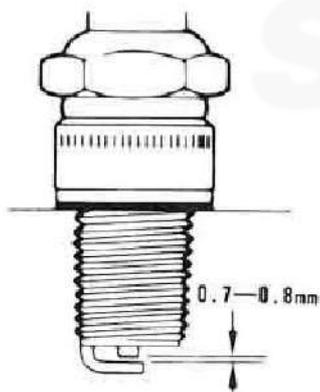
○過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正して下さい。

スパークプラグ

「定期整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR8ESで、ギャップを0.7~0.8mmに調整して下さい。

ウォータークラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッド温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切で、オイルポンプが正常に作動していれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用して下さい。



スパークプラグの検査及び交換

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検して下さい。黒い堆積物が湿って油気を帯びている時は、オイルのタイプが不適當か、オイルポンプのオイル吐出量が過度であることが考えられます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

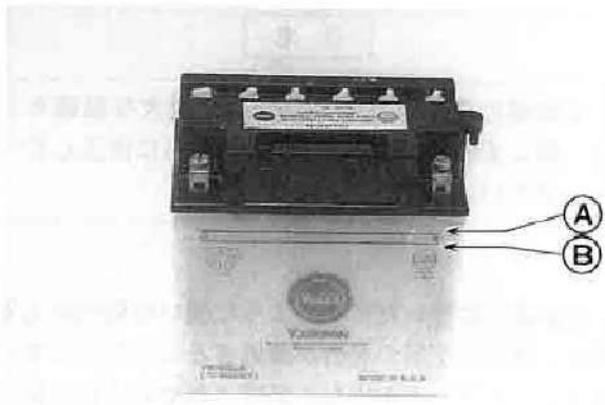
堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7~0.8mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換して下さい。

バッテリー

「定期整備表」の規定に従って、バッテリーの液量とターミナル部を点検します。

注意

○バッテリーのラベル上の事項に注意して下さい。



A. 上限マーク B. 下限マーク

バッテリー液量：

バッテリー液面が、バッテリーケース側面の上限と下限のマークの間にあるようにして下さい。バッテリー液面が低くなったら、バッテリーのフィラキャップを外し、蒸留水を各セルとも上限のマークに達する迄注入して下さい。

注意

○バッテリーには、蒸留水のみ入れて下さい。水道水は不純物を含んでおり、バッテリーの寿命を縮めます。

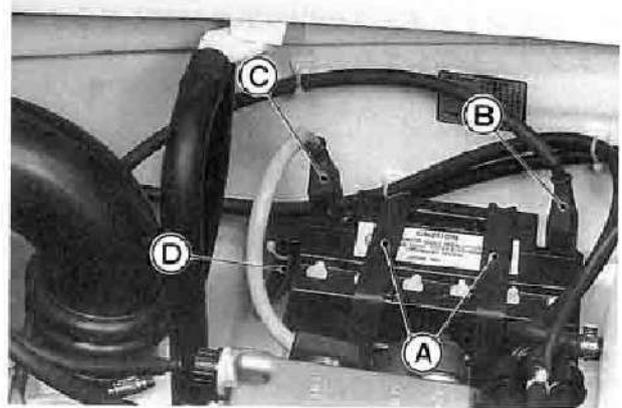
バッテリーの充電：

バッテリー液の比重が20℃で1.20以下のときは、バッテリーを取り外し、充電する必要があります。

バッテリーの取外し

注意

○充電する時はいつでもバッテリーを船内から取り外して下さい。取り外さずに充電すると、バッテリー液がこぼれ、ウォータークラフトの部品が腐食することがあります。



A. ゴムバンド C. 赤リード線
B. 黒リード線 (アース) D. ベントホース

- 最初にバッテリーから黒色のリード線（アース）を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- ベントホースをバッテリーから外します。
- バッテリーを固定している二本のゴムバンドを外します。
- バッテリーを持ち上げて船内から出します。
- ターミナルを清掃します。

バッテリーの充電

警告

○充電中はバッテリーに火気を近づけないで下さい。バッテリーは水素と酸素の混合ガスを発生しているため、爆発の恐れがあります。バッテリーチャージャーを使用する時は、バッテリーをチャージャーに接続した後で、チャージャーのスイッチを入れて下さい。これはバッテリーターミナル部でスパークし、バッテリーの発生ガスが発火するのを防ぐためです。

- 各セルからキャップを外し、バッテリーをチャージャーに接続します。充電は1.9アンペアで10時間行います。

注意

○充電中にバッテリー液の温度が45℃以上に上昇したら、温度を下げるため充電電流を下げてください。従って、充電時間はその分だけ長くなります。

- 充電後、各セルのバッテリー液面を点検します。液面が下がっていれば、上限のマークまで蒸留水を補給します。
- 各セルの比重とバッテリー電圧を測って充電結果を点検します。バッテリー液の比重は、初めてバッテリーを使用するために入れられたバッテリー液の比重と同じでなくてはなりません。通常は室温で1.28です。バッテリー電圧は14.5～15.5Vです。

バッテリーターミナル部：

バッテリーターミナル部の点検と清掃

- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬるま湯を注いで拭いて下さい。
- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナル部に耐水グリースを薄く塗っておきます。

バッテリーの取り付け

- バッテリーを取り外した時と逆の順序で取り付けます。
- バッテリーを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

注意

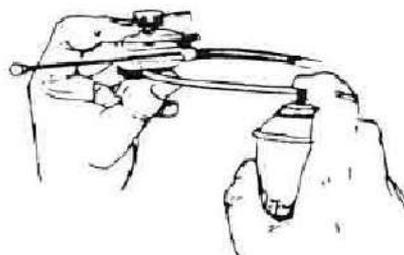
○バッテリーの(+)と(-)を逆に接続しないで下さい。レギュレータや整流器が損傷します。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照して下さい。

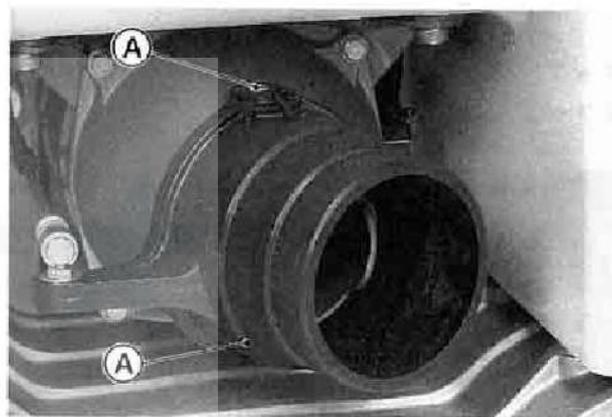
- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

チョークケーブル及びスロットルケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

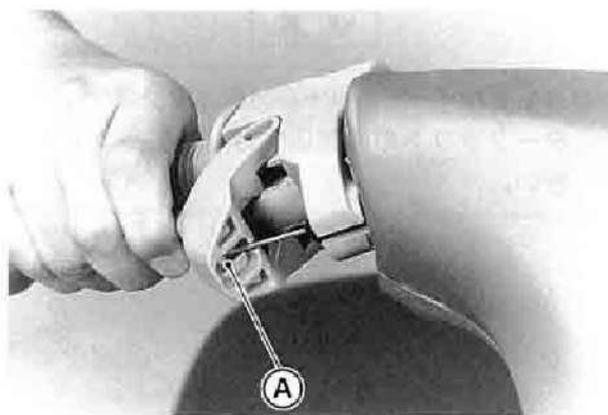
ステアリングノズルピボット



A. ノズルピボット

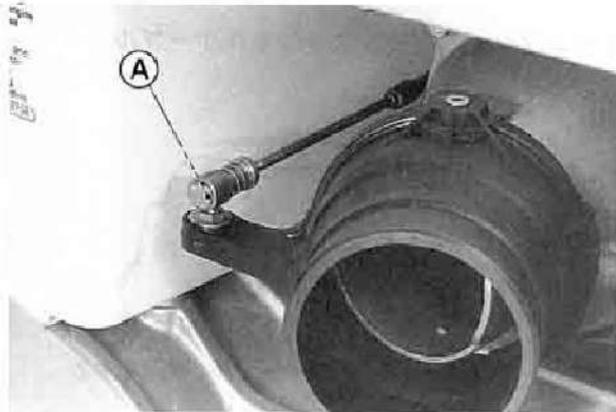
- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

スロットルケースのケーブル取付部



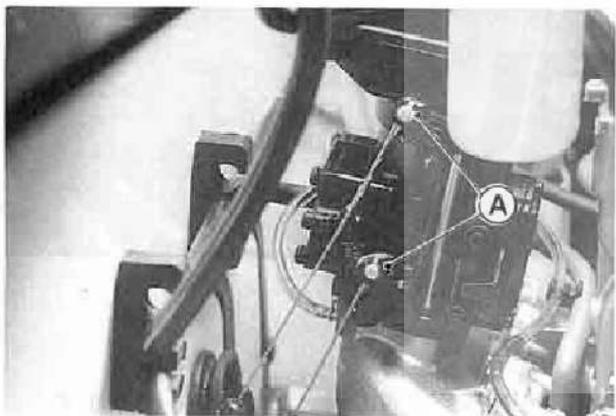
A. グリースを塗布

ステアリングリンクボールジョイント



A. ボールジョイント

キャブレタのスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部



A. グリースを塗布

注意

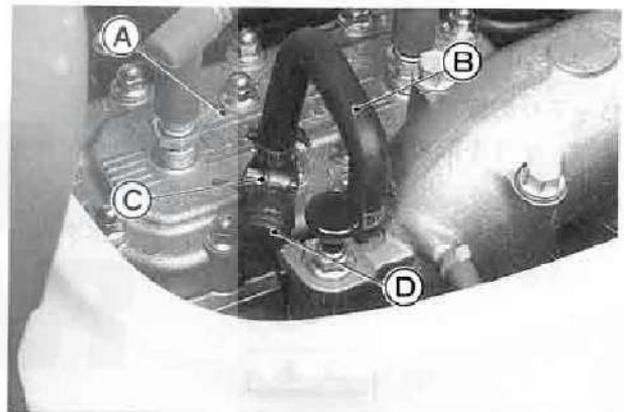
○ハンドルバーピボットの分解と潤滑はウォータークラフトの販売店で行ってもらってください。

冷却システムの洗浄

冷却システムに砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減ったときはすぐに行ってください。

この方法はまた、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばオイルポンプの空気抜き）にも使われます。

- シリンダヘッドとエグゾーストパイプをつないでいる冷却ホースのシリンダヘッド側の取付部に、ゴムのキャップがあります。



A. シリンダヘッド
B. 冷却ホース
C. クランプ
D. キャップ

- クランプをゆるめてキャップを外し、そこに水道のホースを接続します。



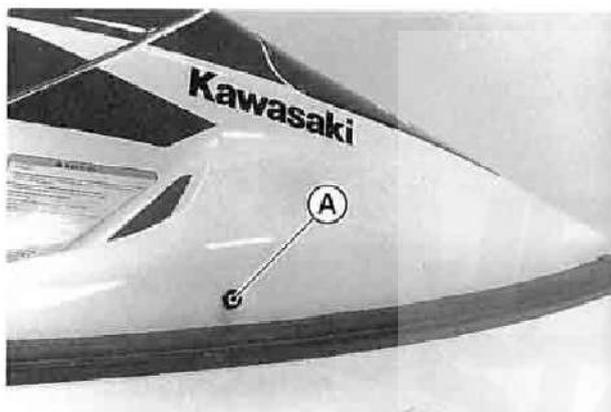
A. 水道ホース

- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注意

○水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。先に水を流すと、エグゾーストパイプを通してエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節して下さい。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回ふかせて排気系統から水を排出します。

注意

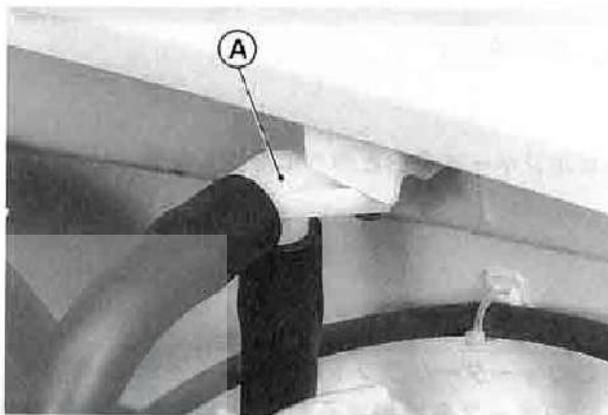
○冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりクランプを締めます。

ビルジ系統の洗浄

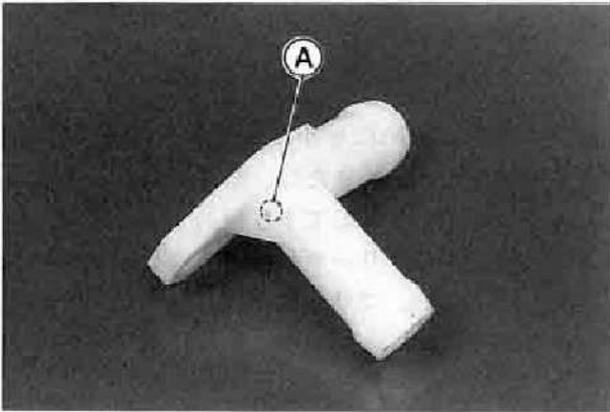
詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄して下さい。

- プラスチックのブリーザーから両方のビルジホースを外して下さい。ブリーザーはエンジンルームの右側にあります。



A. ブリーザー

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スターン（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- もう一本のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。
- プラスチックのブリーザーにホースをもと通り接続する前に、ブリーザーの小さな孔が詰まっていないか確かめて下さい。もし孔が詰まっていたら、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通して水がどんどんエンジンルームに入ってくる可能性があります。ブリーザーを外す必要があるかも知れません。



A. プリーザの孔

- ビルジホースをもと通りに接続します。

〈要 点〉

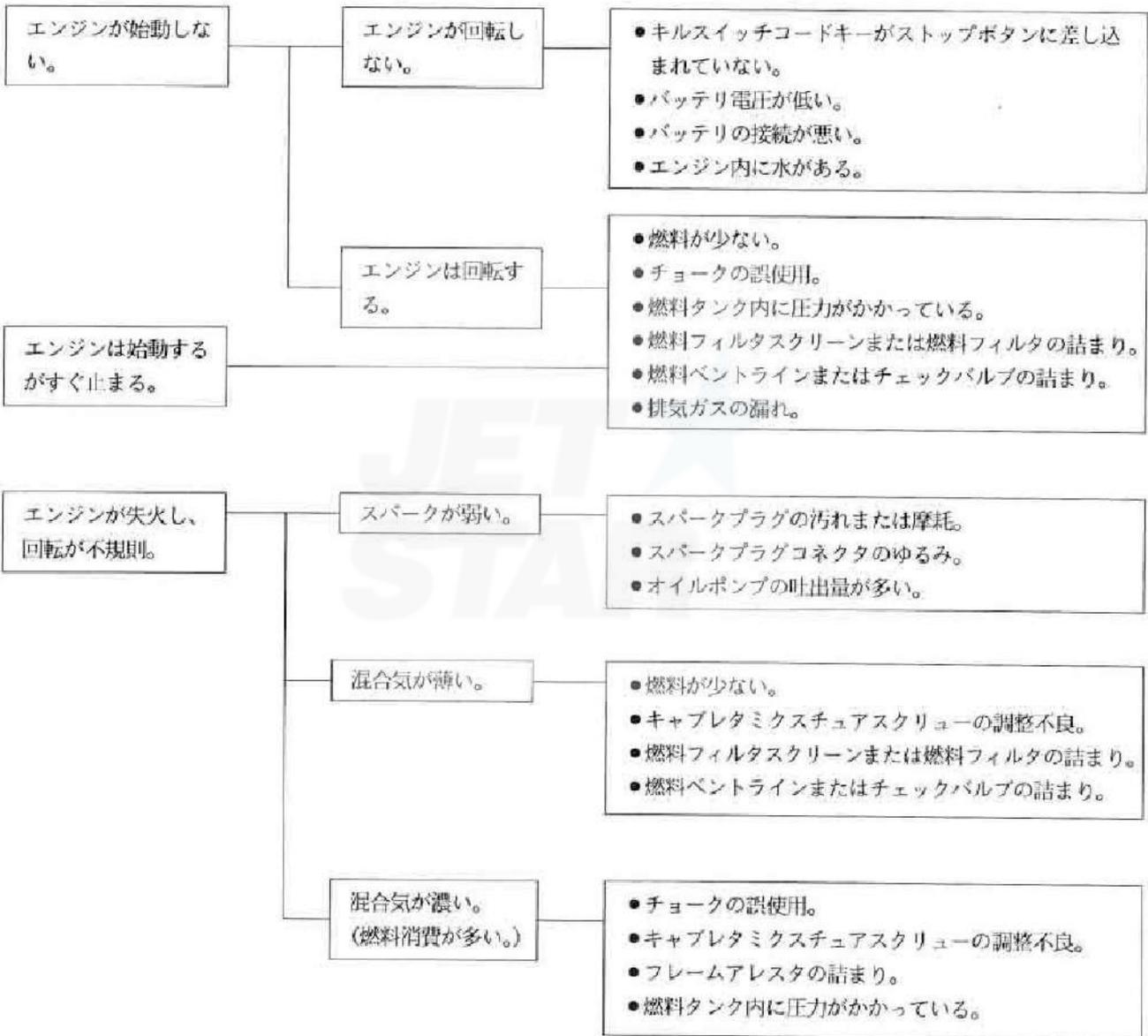
○ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧縮空気を吹き込んで下さい。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

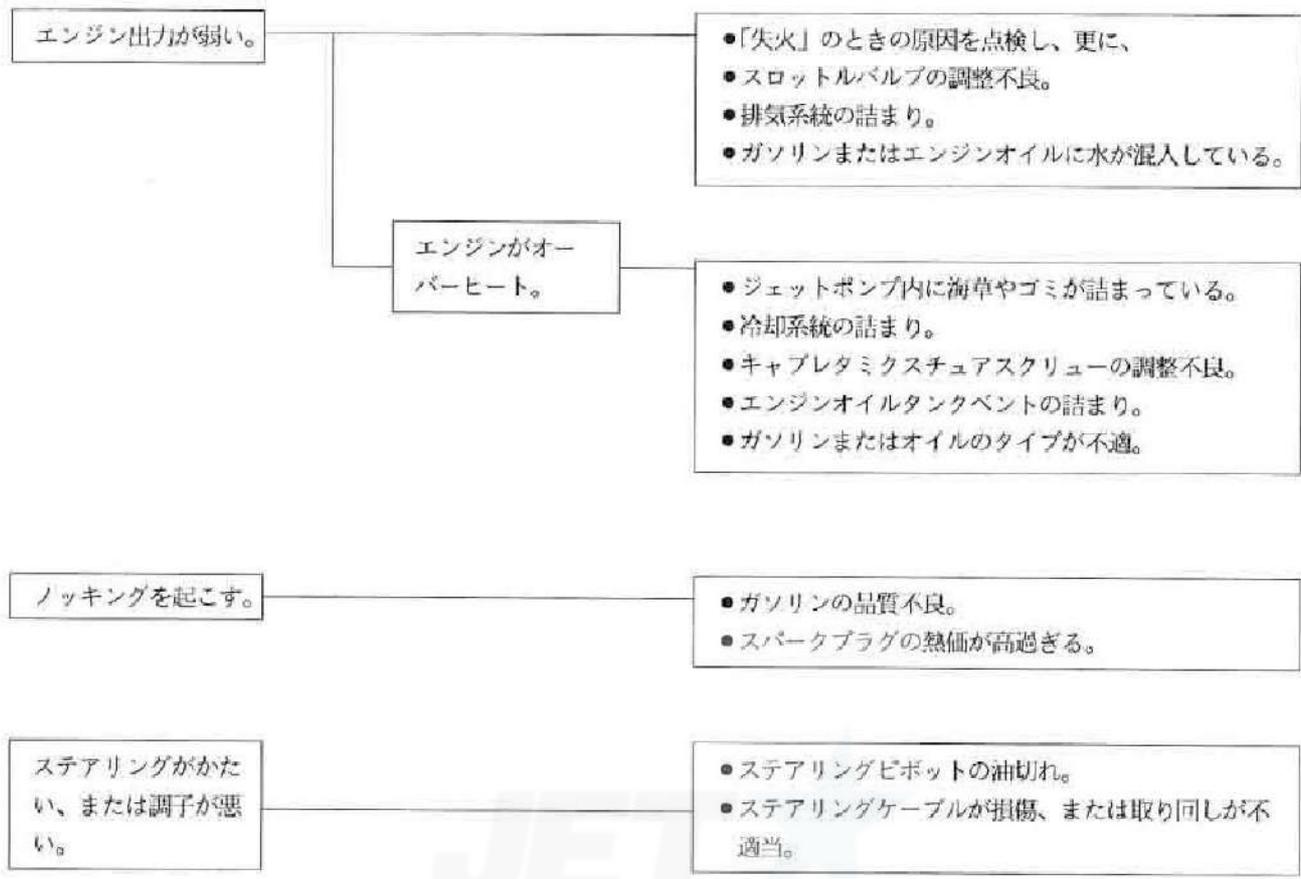
トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータークラフトのトラブルが確定できないときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店に相談するか、サービスマニュアルを参照して下さい。

トラブル

原因





⚠ 警告

○ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でよく調べてもらって下さい。

船舶検査

船舶検査

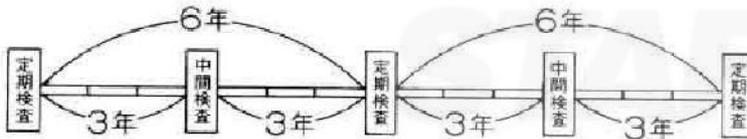
ウォータークラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

- 定期検査
定期的に行う精密な検査
- 中間検査
定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

(1) 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、①船舶検査証書 ②船舶検査手帳 ③船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記①および②の証書類は、ウォータークラフトを使うときには必ず船内に備えて下さい。また、③の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼りつけて下さい。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

(2) 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼って下さい。

航行区域

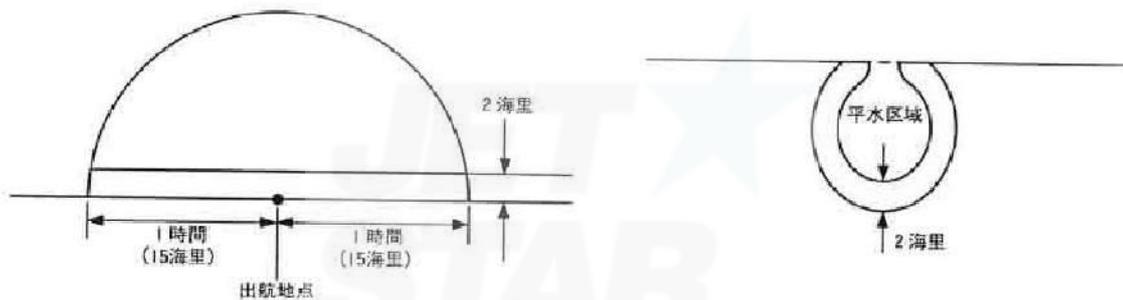
法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

- 注：1) 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
2) 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

沿海区域で、

- (1) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7km）以内の水域、および
- (2) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7km）以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

沿海区域で、

- (1) 母船から半径2海里（約3.7km）以内の水域、
- (2) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7km）以内の水域、および
- (3) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7km）以内の水域。

注意

○母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

JH750-E2

JET STAR



川崎重工業株式会社 CP事業本部

Part No. 99921-1600-01